

# 令和 4 年度 学校自己評価システムシート ( 埼玉県立幸手桜高等学校 )

E36

目指す学校像	夢を語る学校・・・・・・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・・・・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校
--------	--

重点目標	1 基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 2 本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 3 計画的・組織的な進路指導を行い、進路意識を高めて進路希望を実現させる。 4 規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて実社会的で自立する力を育成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	〔現状〕 「朝学習」指導は「レディネス」として一定の成果を上げている。一方、一部の生徒の遅刻や学習への取組が不十分となっている。生徒の学習意欲の向上を図り、家庭学習の習慣化を図ることが重要である。 〔課題〕 ・文理系と商業系の特色を出し、系列の特色を生かした進路実現を図ること。 ・欠点保有者や学習支援を要する生徒への組織的な対応を教科と年次が連携して取り組むこと。 ・朝学習の監督や生徒実態に即した指導と学習内容の改善を進めること。 ・新学習指導要領を踏まえ、生徒の学力向上に向けた授業改善を進めること。 ・大学入学共通テストの受験者を増やすこと。 ・成績不振者の数を減らすとともに成績優秀者の数を増やす。 ・新学習指導要領に則り適切な観点別評価の実施すること。	○基礎学力の定着と授業改善を推進し、生徒の学力向上を図る。 ○各教員が自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や学力向上のための具体的な授業改善策を明示して取り組む。 ○育成したい資質・能力、スキルポリシー、評価の観点を知り、 ○ICTを効果的に活用した授業に取り組む。	①各年次による巡回指導等を通して、毎時チャイム着席を確認し、規律ある学習環境を確保する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業によるきめ細かな学習指導により学力向上を図る。 ③授業公開週間を活用し、教員相互の授業改善を図る。 ④タブレット端末や、プロジェクトを活用し、生徒の興味や関心を高める授業づくりを推進する。 ⑤各年次が主体となり朝学習の質を高める。 ⑥長期休業中を中心にして、各教科による進学補講、資格取得に向けた補習を充実する。 ⑦各所がスキルポリシーの実現を図る。 ⑧自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や授業改善策を示し、実践する。 ⑨各教科で評価の観点明確にし、3観点を適切に評価する。 ⑩新カリキュラムによる指導と学習内容を工夫し、進学への意欲向上を図る。	①②③④⑤⑥学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑤⑥成績優良者は増加したか。 ②④⑤⑥⑦⑩大学入学共通テストの受験者は増加したか。 ②⑤成績不振者は減少したか。 ④授業改善の取組が推進されたか。 ⑥進学補講や資格取得のための補習や補充授業等の充実が図られたか。 ⑦各分掌のシートで振り返りをさせたか。 ⑧自己評価シートに示された生徒の主体性を育む方策や授業改善策について取り組みがなされたか。 ⑨学習評価が生徒の学習意欲の向上につながったか。				
2	〔現状〕 コロナ禍による地域のイベントの中止により、R1まで実施してきた連携事業は全て止まっている。感染症の状況を注視しつつ、現状でできる連携事業を模索する必要がある。 〔課題〕 ・本校の様々な取組や成果について、積極的に中学生や保護者、県民に発信すること。 ・広報活動を広域的に進め、生徒募集を学校全体で取り組むこと。地域、商工会、大学等との新たな連携を構築すること。	○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実を図る。 ○本校を第1志望とする受検生への丁寧な対応と、積極的な生徒募集活動を展開し、本校志願倍率1.05倍を目指す。	①幸手市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に中学校訪問や学校説明会等において、学校の特色や系列、そして進路状況等を強調して説明し、具体的な情報発信を行う。 ③HP更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤部活動による小学校・中学校・地域との交流を実施する。 ⑥地域の中学校との情報交換の場を活用し、積極的な生徒募集を進める。	①活動を通して得られた教育力を生徒に還元し、成果を広域に情報発信ができたか。 ②⑥本校志願倍率が1.05倍を超えたか。 ③HPの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、様々な組織(年次・分掌・部活動等)で更新する対応ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動(文化祭・市民祭りの参加)ができたか。 ⑤マーケティング活動を中心に、地域行事に参加し、地域の活力を本校に呼び込むことができたか。				
3	〔現状〕 コロナ禍や大学入試改革等の影響により、進路指導や就職指導に対して先行きが不透明な状況がある。本校生徒のキャリア形成を図るため、最新の情報をもとにキャリア教育の充実をさせることが重要である。 〔課題〕 ・感染状況を見極め、健康管理と感染防止対策を図りつつ、インターンシップ等の教育活動により、将来の職業観や就業意欲を高める指導の充実を進めること。 ・キャリアパスポート(手帳を含む)による明確な目標設定や資格取得を生徒に定着させること。 ・進路指導満足度を80%以上に上げる。	○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。 ○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。 ○進路指導のツールを活用する為、教員研修を充実させる。	①手帳による活動の記録を年間を通して習慣化させ、進路活動に役立てる。生徒自身の自己管理能力を高める。 ②進路指導部と年次の連携により、3年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向け、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、自己肯定感を確立させると共にキャリア教育を充実させる。 ⑤各クラス担任がキャリアカウンセリング的面談を繰り返し行い、生徒の進路意識を向上させ、進路決定時のミスマッチを防止する。	①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上し、意識啓発に結びついたか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。 ⑤生徒、保護者、担任が三位一体となり、ベクトルを合わせ進路指導を行い、進路実現を果たしたか。				
4	〔現状〕 毎朝の校門指導や交通安全指導を行った成果で、生徒たちは落ち着いた学習環境の下、高校生活を送っている。 〔課題〕 ・基本的な生活習慣の確立と、安全・安心な学校生活を実現するため、更なる学校環境の充実を図ること。 ・明るく元気なあいさつを実行に移すこと。 ・学校行事を活性化し、「幸手桜で頑張りたい」という生徒を一人でも多く集めること。 ・成年年齢の引き下げに伴い、実社会で様々な課題に直面した際、対応できる力を身に付けさせること。	○規範意識の醸成や基本的な生活習慣の定着に向けた取組を通じて、生徒の自己管理能力を育み、主体的な学校生活づくりを進める。 ○部活動の活性化を図るため、地域の中学校などとの合同練習や招待試合等を行う。 ○挨拶の励行と、地域連携事業やボランティア活動を通して人間性豊かな生徒を育成する。	①基本的な生活習慣の定着や安心・安全の学校づくりのため、生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。特に、SNSが起因する生徒間トラブルを防止するため、重点的に指導を行う。 ②生徒指導部と各年次の連携による登下校指導や整容指導、PTAと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ③教育相談員やSSWを活用し、カウンセリングマインドを重視した生徒指導を充実させる。 ④成果や結果については報道機関への積極的な情報提供を行う。 ⑤部活動で中心的な役割を果たす生徒たちへの帰属意識高揚を図るための激励会を開催する。 ⑥教員が生徒へ積極的に挨拶をする。 ⑦地域の方とのふれあいやボランティア活動を通じた人格形成を図る。 ⑧校長や各主任の講話で成年年齢引き下げについての情報提供を行う。 ⑨教務部を中心に、皆勤奨励する取組を実施する。	①生徒指導件数が減少するに至ったか。SNSが原因・関係する生徒間トラブルが減少したか。 ②学校自己評価アンケートで、基本的な生活習慣及び学習に関する内容の達成状況が向上したか。 ③転退学者数は減少に至ったか ④⑤3年間継続し部活動を行う生徒が増えたか。 ⑥生徒の挨拶が定着したか。 ⑦人間性豊かな人格形成が図れたか。 ⑧学校自己評価アンケートで成年年齢引き下げへの理解が深まったか。 ⑨皆勤者数を増やすことができたか。				